

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味です。「アジェンダ21すいた」は、市民・事業者・行政が力を合わせて、持続可能な社会の実現を目指すパートナーシップ組織です。

## CONTENTS

- すいた環境教育フェスタ2017・・・1,2
- 平野下水処理場見の見学会・・・3
- くるくるウィンターフェスタ・・・4,5
- 「アジェンダ21すいた」会員交流会・・・6
- 生物多様性リーフレット作成中・・・7
- 各種募集・イベント案内・・・8

## すいた環境教育フェスタ2017 開催しました！

2017年2月4日（土）、メイシアターにおいて、「はじめよう 地球にええこと わたしから」を統一テーマに「すいた環境教育フェスタ」（主催：吹田市）が開催されました。

このイベントは、パネル展示やものづくり、身近な遊びなどを通して環境について学んでもらう催しです。「アジェンダ21すいた」も、運営委員会に参加し、市内の環境団体や大学・事業者とともにフェスタの運営に関わりました。それぞれ工夫を凝らした出展をしていただき、来場者数は728人とにぎわいました。「アジェンダ21すいた」からは、3つのテーマで出展しました。

### エコ宣言で作るツリー

各人の「エコ宣言」を付箋に1枚ずつ書いてもらい、模造紙のツリーに貼りつけて行く「エコ宣言で作るツリー」には122人の参加がありました。

参加者には抽選で保温ボトルやティーバッグが当たる仕組みにしました。マイボトルの持ち歩きや、ペットボトルの飲料を買わずにお湯を沸かしてお茶を入れる習慣を取り戻そうとの願いを込めました。

付箋に書かれた内容を分類分けすると、「廃棄物関連」（42%）、「エネルギー関連（電気・交通など）」（38%）、「節水関連」（11%）、「食品ロス関連」（2%）、「その他」（7%）となりました。「廃棄物関連」では、マイバッグやマイボトル持参などリユースに関心が高い反面、リデュース（無駄な購入は控える）の意見がありませんでした。また、「エネルギー関連」では、節電や歩くなどの意見が多かったですが、省エネ型の機器に買い替えるなど、大きくエネルギー削減につながる意見がみられませんでした。「食品ロス関連」については、国が力を入れてキャンペーンを始めていますが、一般消費者の関心を呼ぶまでには至っていないことがわかります。

小学校低学年の児童も一生懸命「エコ宣言」を考えてくれました。なかには、「できるだけノートに字をちっちゃく書く」という宣言もあり、なるほど省資源につながる行動ではあるなあと感じた場面もありました。

個人の環境行動がどれだけ環境負荷を減らせているか、目安になる資料の提供も必要だと感じました。また、子どもも多く訪れる環境教育フェスタで、いかに子どもにもわかる情報を提供できるかといったスキルも磨いていかなければならないと感じました。



エコ宣言で作るツリー



エコ宣言に挑戦する後藤圭二市長

（副代表 水川 晶子）

# すいた環境教育フェスタ2017(資源部会、エネルギー部会)

## エコ双六

エネルギー部会では、「エコ双六(すごろく)」を使った環境啓発ブースの出展を行いました。「エコ双六」は、神戸の環境団体・CO<sub>2</sub>減(シオツゲン)の会が作成したもので、サイコロを振って出目の数だけ進み、止まったマスに記載されている環境クイズ(3択)に答えながらゴールを目指すというものです。当日は代表の雑賀梨恵さんにもお手伝いいただきながら運営しました。

実績としてブース来訪者163名、すごろく挑戦者は子どもたち中心に125名でした。

なかなかの難問ぞろいで、大人の皆さんもかなり悩みながら解答しておられましたが、満点が58名もおられました。参加者の方々にはソーラーライトやボールペン、バインダーを景品としてお渡しして喜んでいただけたと思います。

(エネルギー部会 馬場慶次郎)



エコ双六で学ぶ来場者の方々

## 給茶コーナー

外出時に水筒などのマイボトルや、マイカップを携帯すれば、容器ごみは出ません。

資源部会は、今年のフェスタに引き続き「給茶コーナー」を設け、マイボトル、マイカップ持参の方に、無料でほうじ茶を提供しました。

また、吹田市内でマイボトルやマイカップを持参すると値引きしてくれるカフェ5社やコンビニ1社の店舗の情報をマップにして展示も行いました。

マイボトル、マイカップ等の持参者は60名(昨年37名)、ほとんどの方が事前にポスターやチラシを見て、給茶に来てくれました。リユースカップの利用者は25名(昨年75名)、合計85名(昨年112名)の方が、給茶に訪れました。



給茶コーナーの様子



マイボトル・保温ボトルを利用できるカフェの地図

残念ながら、合計人数は昨年より少ない人数でしたが、マイボトルやペットボトル持参者は増えました。認知度を高め、マイボトルやマイカップを持ち歩く人が増えるよう、続けて取り組むことが必要でしょう。

(資源部会 大澤 浩子)

## 平野下水処理場の見学会（エネルギー一部会）

下水污泥は安定的に確保しやすいため、バイオマス（※1）資源として活用するプロジェクトが広がっています。その先進事例である、大阪市・平野下水処理場の見学会を2017年1月19日（木）、エネルギー部会会員5名と市民5名の計10名の参加で行いました。

同施設は、平野区、東住吉区、生野区など大阪市東南部とともに、隣接する東大阪市、八尾市域の下水も処理しています。処理能力は323,000立方メートル/日で、吹田市の南吹田下水処理場の4倍以上です。

大阪市には12の下水処理場がありますが、ここで生じる污泥は舞洲スラッジセンターか平野下水処理場のどちらかに送泥管を通じて集約されます。平野下水処理場には、中浜・今福・放出各下水処理場で発生する污泥も送られてくるとのことです。ここでは、脱水処理した污泥は污泥炭化炉（150t/日）もしくは污泥溶融炉（150t/日）によって処理されます。溶融炉ではスラグが生成され、土木工事用資材として利用されます。炭化炉では石炭の代替燃料になる固形燃料が生成されます。



脱水污泥をさらに乾燥

乾燥、造粒、炭化の過程の機器を見学しましたが、どれもとても大きな装置です。生成された炭化燃料を手に取りましたが、臭いはほとんどしません。ただ、燃焼させた際は臭気の問題は出てくるそうです。

石炭の約半分の熱量を含むということで、現在は電源開発（株）高浜火力発電所と住友大阪セメント（株）赤穂発電所に納入され、石炭に約0.6%混入し火力発電の燃料として利用されています。炭化炉の建設費用は59億円だったそうです（そのうち55%は国庫補助）。炭化燃料の販売額は1トンあたり100円で、年間でもわずか92万円に過ぎませんが、吹田市でも脱水ケーキ（※2）のコンポスト化（※3）・セメント化のための収集運搬業務、中間処理業務に2億8千万円がかかっていることを考えると収支的にも妥当性があると言えます。



生成された炭化燃料

大阪市では、この他にも下水污泥を嫌気性発酵させ、発生するガス（消化ガス）を発電に利用する事業が進捗しており、今年の4月から新たに4か所の処理場で消化ガス発電事業が始まります。吹田市でも、コンポスト化もしくはセメント原料化され、下水污泥は100%再利用されていますが、炭化や消化ガス利用などがより有効なリサイクル方法となる可能性もあり、今後さらに研究していきたいと思えます。

（エネルギー部会 馬場慶次郎）



市民の参加者と一緒に撮影した集合写真

（※1）バイオマス…再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。（環境省『環境白書』2011年）

（※2）脱水ケーキ…污泥や水中混濁物質等を脱水機にかけて水分を除去した後に残った固形の物質。（EICネット）

（※3）コンポスト化…下水污泥、ごみ、家畜ふん尿、木屑などの有機物を、微生物により発酵させ堆肥化し、肥料や土壌改良材として農業用に再生利用すること。（weblio辞書）

# ストップ！地球温暖化 くるくるウィンターフェスタ in ららぽーと EXPO CITY 光の広場(全体事業)

2017年2月18日(土)、ららぽーとEXPO CITY「光の広場」で(公財)千里リサイクルプラザ主催の「ストップ！地球温暖化くるくるウィンターフェスタ」が開催されました。このイベントでは、温暖化問題をはじめ、資源のリサイクルなど、環境問題の啓発や手づくりおもちゃの体験ブースなどが設けられ、多くの人に興味を持っていただくことができました。「アジェンダ21すいた」からも、「エコ宣言ムービー」や「すいた、わたしのエコ宣言」を出品しました。

オープニングでは、大阪学院大学のチアリーダー部による演技、後藤圭二市長からのご挨拶があり、会場も盛り上がりました。チアの演技では、一人ひとりが手に持った黄色のポンポンで「チキウウ」、「タイセツ」、「カンキョウ」、「マモロウ」といった文字が形作られ、環境を大切にしようというメッセージが伝わるものでした。



大阪学院大学チアリーダー部の演技



メッセージを表す文字「カンキョウ」



後藤圭二市長によるオープニングのご挨拶

また、「アジェンダ21すいた」では、2016年10月から、市内各イベントで、市民の皆さまに、身近にできるエコな取り組みを宣言してもらった。「すいた、わたしのエコ宣言」を収集してきました。ガンバ大阪の選手にも宣言をしていただき、その結果、約400人分に達しました。

そして、本イベントに向けて、それらにエコに関するメッセージを織り交ぜた動画「エコ宣言ムービー」を作成しました。この映像を観た方にも、環境に負荷のかからない生活様式が広まることをねらいとしています。



ステージで「エコ宣言MOVIE」を上映中

千里リサイクルプラザ、吹田市、アジェンダ21すいたの共催で、地球温暖化防止実践デーが、無事、実施できました。熟練したプラザ市民研究員の皆さんやアジェンダ21すいたの皆さん、市内大学の皆さんの年齢を超えた協働、また、市民の皆さん、そして企業、行政の三者協働、さらには環境と音楽、文化の融合。

「生命の樹」を宿し、未来を照らし出す「太陽の塔」が見下ろすエキスポシティで、「人類の進歩と調和」に内在していた未来を再考する。そのようなことを思いえがきながら、足元から地球の未来を考え行動する、その第一歩を踏み出すことができたように思います。

(代表 三輪 信哉)

来場された方々には、身近にできるエコな取り組みを宣言する「すいた、わたしのエコ宣言」に参加していただき、省エネに関する問題を解く「クイズで発見！エコクイズ」に挑戦していただきました。この日を機に、市民の皆さま一人ひとりが、環境に配慮したライフスタイルを心がけてくださることを願っています。

「アジェンダ21すいた」は、三者（市民・事業者・行政）協働組織として機能することを目的として活動してきました。本イベントでは、リコージャパン株式会社の社会貢献クラブ「Free・Will」から寄付金を賜りました。また、地域の大学生とも連携し、大阪学院大学・大阪大学・関西大学の学生に、オープニングの司会やブースの運営を担ってもらいました。皆さまのご協力により、本イベントがより充実したものになりましたこと、心よりお礼申し上げます。



「クイズで発見！エコライフ」のブース



「すいた、わたしのエコ宣言」のコーナー



大阪学院大学と大阪大学の学生



関西大学経済学部の学生



エコ宣言を選ぶ子どもと大阪大学の学生

～リコージャパン株式会社寄付金「授与式」の報告～

社会貢献クラブ「Free・Will」は、社員様の任意による参加型の支援組織で、集まった資金を社会課題の解決のために寄付していただきます。「アジェンダ21すいた」の地球温暖化防止プロジェクトにもご賛同くださり、寄付金をいただく運びとなりました。

リコージャパンの社員の皆さんの浄財をいただいて、「地球温暖化防止実践デー」を力強くスタートすることができました。心より感謝申し上げます。

(代表 三輪 信哉)



リコージャパン株式会社本町事業所にて（2017年1月18日）

## 「アジェンダ21すいた」会員交流会(全体事業)

4月2日(日)午後4時から、すっきりと晴れ渡った青空のもと、座敷や土間などを昔の状態に復元されている吹田歴史文化まちづくりセンター 浜屋敷（以下、浜屋敷）をお借りして、初めての会員交流会を開催しました。これまで会員交流の場としては、定時総会後の懇親会がありましたが、短時間で終わってしまうため、十分交流を深めることができませんでした。

今回は、春のひととき、桜や春の草花を愛でながら、会員交流会ができたらいね、ということで実施しました。初めての企画であったこともあり、参加者は幹事、事務局、一般会員合わせて20名とこじんまりした集まりとなりましたが、和気あいあいとした雰囲気でもとてもよかったですと思います。

最初に、いったん浜屋敷の庭に出て、満開までもう少しの薄墨桜の前で集合写真を撮りました。そのあと、和室にて縁側越しに見える広いお庭や春の花々を見ながら、まずは、全員で乾杯しました。その後、浜屋敷に初めて来られた会員さんもいましたので、浜屋敷の成り立ち、施設の紹介、イベントの紹介など、「アジェンダ21すいた」の幹事で、浜屋敷の指定管理者であるNPO法人吹田歴史文化まちづくり協会理事でもある小田信子さんから説明をしていただきました。

そして、「アジェンダ21すいた」が進めている「30・10（さんまるいちまる）運動」として、最初の30分は、各々歓談しながら、色とりどりのお寿司、サンドイッチ、おつまみ、そして、なんととってもお花見には花見団子、また、差し入れをしていただいた和菓子に飲料もいただき、おなかも満腹、お話も満腹になりました。

また、初めてお会いする方々もいらっしゃるので、一人1分スピーチで自己紹介や近況報告をしました。話したい内容がありすぎて、1分のアラームが鳴り続ける方もいらっしゃいましたが、「もう少し話したかったなあ」「もう少し聞きたかったなあ」という心残りがあがるほうが、次の機会につなぐことができそうです。最後の10分は飲食物の残りがないように持ち帰り、会場の座敷もみんなで片付けて、会員交流会を終了しました。次の機会をお楽しみに！！



浜屋敷の歴史についてお話を伺いました



持参したマイカップで飲み物をいただきました



中庭の桜

## 生物多様性リーフレット作成中（自然部会）

「アジェンダ21すいた」自然部会では現在新しいリーフレットを作成中です。

これまでのリーフレットでは、ガーデニングで知らず知らずのうちに外来種を植えることにより、地域の自然を壊しかねないことへの注意喚起と、植えてはいけない外来種や要注意外来種を知っていただくために写真を掲載していました。また、生物多様性に配慮した庭づくりやベランダガーデンについても紹介してきました。しかし、生物多様性を脅かすおそれのある外来種が増え、私たちを取り巻く環境が変化するなか、生物多様性の大切さと外来種の駆除についてよく知ってもらうために、このたび新しくリーフレットを作成することにしました。

「なぜ必要？ 生物多様性」と題して、生物多様性はなぜ大切なのか、これを守るために私たちができることを紹介します。吹田に入ってきた外来種として、オオキンケイギク、ナルトサワギク、オオカワヂシャを取り上げます。



オオキンケイギク

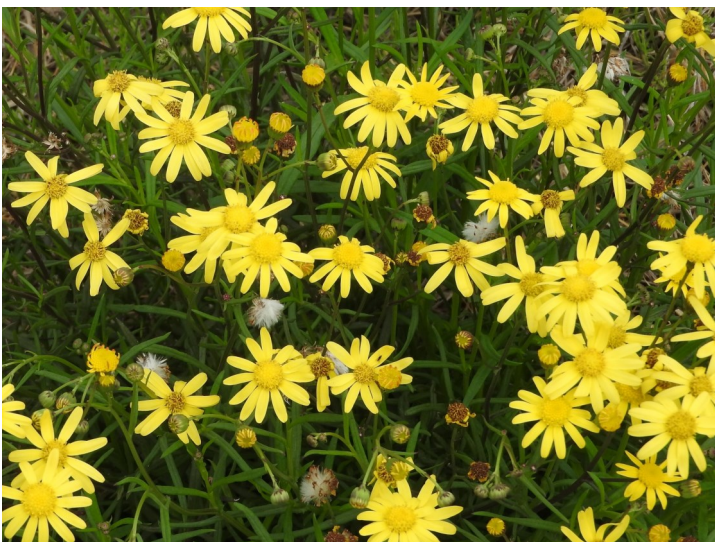
また、大阪府で絶滅していたと思われていたヤマサギソウが70年ぶりに発見された、吹田に残された自然についても紹介しています。

生物多様性を守るために私たちは何から始めればいいのか、身近な暮らしの中で始められる5つのこと、入ってきた外来種の駆除の方法も載せる予定です。

小さなリーフレットですが、生物の多様性の大切さと、私たちが暮らす吹田の自然を知り守っていくための一助となればと思っています。

発行は5月末の予定です。

（自然部会）



ナルトサワギク



オオカワヂシャ

# 各種募集・イベント案内

## みどりのカーテン講座

窓辺や壁でつる性の植物を育て、暑さを和らげませんか。みどりのカーテンの作り方の実演指導を行います。

- ◆とき／2017年5月27日（土）10時半～正午
- ◆ところ／千里ニュータウンプラザ8階 多目的ルーム
- ◆定員／50名（先着順）
- ◆費用／無料
- ◆申し込み／5月8日（月）から電話で、アジェンダ21すいた事務局 環境政策室（6384・1782）へ。
- ◆問い合わせ／電話かファックスで同室へ（FAX 6368・9900）。



## 2017・第11回 市民環境講座

自然との共生を学び、より良い環境づくりを考えよう！第2回「鳥に学んだ500系新幹線電車」（6/10）・第3回「生活を快適にする水回りの製品開発」（6/17）・第4回「省エネ冷蔵庫の最新動向」（6/24）と連続開催します。毎回、土曜日14時～16時です。

- ◆とき／2017年6月3日（土）14時～16時（第1回目「フードバンクって何？」）
- ◆ところ／吹田市立 男女共同参画センター
- ◆費用／無料
- ◆申し込み／Fax（6339・0740）、Mail（senri.r.tuzi@gmail.com）、毎回先着60名
- ◆主催／NPO法人 すいた環境学習協会

## 「まちなか水族館」の市民ボランティア募集！

市役所本庁舎、水道部、市民病院に日本の淡水魚を展示している大型水槽「まちなか水族館」のお世話をするボランティアを募集しています。水槽の水替えとガラス拭きや魚の学習講座などの企画を行います。生物多様性の啓発施設として維持していきたいと考えていますので、ぜひご協力ください。

- ◆とき／毎週月曜日の午前中（清掃） ◆問い合わせ／電話かファックスで環境政策室（TEL 6384・1782 FAX 6368・9900）へ。

## ホームページで、イベント情報や活動スケジュールなどをお知らせしています。

イベント情報や活動スケジュールなどの情報を掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。  
ホームページ <http://www.ag21suita.org/>

### アジェンダ21すいた入会のご案内

持続可能な社会をめざして、一緒に活動しましょう！

#### 【会費】

- ◆正会員 個人1,000円／年  
団体5,000円／年
- ◆賛助会員 1口1,000円／年
- ◆準会員 無料

#### 【会員特典】

ニュースレター・各種案内資料の送付  
部会活動への参加、主催行事への参加など

### アジェンダ21すいたニュースレター

第42号（平成29年4月25日発行）

発行：アジェンダ21すいた事務局

〒564-8550 吹田市泉町1-3-40

吹田市環境部環境政策室内

TEL：06-6384-1782 FAX：06-6368-9900

E-mail：env-seikaku@city.suita.osaka.jp

企画・編集：アジェンダ21すいた『エコセン』